

第 23 期 東京都社会福祉審議会 審議テーマ 提案メモ

1 前期の意見具申について

前期（第 22 期）の社会福祉審議会では、今後見込まれる人口・社会構造の急速な変化や地域生活課題の複雑化・複合化に加え、コロナ禍で顕在化した課題等を踏まえ、「2040 年代を視野に入れた東京の中長期的な福祉施策の在り方」について検討を行い、意見具申を行った。

意見具申では、「標準的なライフコースを前提としない福祉制度の必要性」という課題認識のもと、既存の制度では対応が困難な複雑化・複合化した課題について、高齢者、障害者、子供、女性のそれぞれの切り口から今後有効とされる視点や取組を示した。また、支援が届きにくい層へのアプローチについて、相談支援の重要性や包括的な支援体制の必要性に触れた上で、福祉分野に限られない包括的な視点が重要であるとした。さらに、多様化する地域社会や福祉の担い手の課題と新たな視点についても言及した。

2 今後の東京を取り巻く社会環境について

今後の人口構造を見据えると、2040 年代には「団塊ジュニア世代」が、2050 年代には「ポスト団塊ジュニア世代」が後期高齢者となり、東京の総人口に占める 65 歳以上の割合（高齢化率）は約 3 割となり、東京はかつてないほどの超高齢社会を迎える。それに伴い、認知症高齢者の増加や医療・介護サービス需要の増加や労働力不足の深刻化などが、これまで以上に大きな課題となることが予想される。

また、東京に暮らす人の平均寿命は年々延伸しており、まさに「人生 100 年時代」の到来が現実のものとなりつつある。そのため、高齢期における「余生」の価値観には変化が見られ、「余生」に就労や生きがいづくりを求める高齢者は増加し、そのニーズは多様化している。

さらに、今後、単独世帯の増加が見込まれ、人や地域とのつながりの更なる希薄化が懸念されることから、孤独・孤立の問題や移動・買い物など日常生活を営む上での活動への影響が一層深刻化する恐れがある。

一方、2050 年代は、これまで以上にデジタル化が進展し、ロボットや AI 等が主力となり、デジタルの力で誰もが快適で質の高い生活を送ることができる社会の到来が見込まれている。

こうした社会で高齢期を迎える「団塊ジュニア世代」や「ポスト団塊ジュニア世代」は、既にスマートフォンを使いこなし、AI や IoT 等のデジタルにも慣れ親しんでいることから、現在課題となっている高齢者のデジタルデバイドは解消されている可能性がある。

しかしながら、デジタルをはじめとして爆速的に社会が進化する中、社会に柔軟に対応できない高齢者も一定程度存在することが予想される。

そのため、子供・若者などの若い世代との交流などを通じ、高齢者が社会の変化に対応できるよう支援していくことが一層重要となる。

3 研究会の開催について

こうした将来の社会環境を踏まえ、社会福祉審議会では、昨年、研究会を開催し、高齢者に関する社会的な課題について、多方面から専門家を招き、講義いただいた。

その中で、高齢者の豊かな暮らしを支えるためのデジタル技術の活用例として、元気な高齢者とボランティアや趣味の活動など様々な社会活動とを AI でマッチングし、地域における社会参加を促進する取組や、身体機能の低下した高齢者が VR 空間でのスポーツや旅行を通じて健康増進を図る取組などについてご紹介いただいた。

また、人や地域との緩やかなつながりや多様な居場所づくりの創出が孤独・孤立防止につながることで、若年層との交流が高齢者のウェルビーイングの向上や生きがいになること、知的好奇心や社会参加活動等が認知機能の維持につながるなどをお示しいただいた。

4 今期の審議テーマについて

将来の東京を取り巻く社会環境下においては、高齢者の概念が取り払われ、いつまでもアクティブに自分らしく暮らせることができる社会を目指していくことが重要である。

そこで、今期の社会福祉審議会では、今後の急速な高齢化やデジタル化の進展を背景として捉えた上で、全ての高齢者がどのような状態にあっても、生き生きと心豊かに暮らすことができる社会の実現に向け、「人生 100 年時代における東京の福祉施策のあり方」について、議論することとしたい。

5 審議を進める上での諸論点

これまで開催してきた研究会での専門家の講義、およびその後の討議で交わされた意見のなかには、このテーマでの審議を進める上で参考となる様々な知見や問題提起、提案等が含まれていた。それらを踏まえて、審議を進める上で考慮することを期待したいいくつかの論点を示しておきたい。

第一に、さまざまな科学研究の進展により示された加齢現象や高齢期に関する新たな見方、そして、飛躍的な技術進歩がもたらす高齢期の生活の新たな可能性に注目する必要があるのではないかな。

第二に、科学と技術の発展が指し示す未来像は、さまざまな社会的な取り組みを通して現実化し得るものである。高齢者が、アクティブに社会生活に参画し、その人なりの形で社会に貢献したいという希望を実現する上で、何か社会的障壁があるとすれば、それを除去するという観点も必要ではないかな。

第三に、世代間関係への着目も必要ではないかな。世代間の競合や利害対立が注目されることが多くなっているが、世代継承性や世代間連帯という観点も重要と考える。

第四に、福祉をめぐる議論では、家族や地域社会における高齢者の役割に注目されることが多いが、経済における高齢者の役割もますます重要になっていくのではないかな。生産者としての高齢者、消費者としての高齢者の両面から、高齢者が経済社会の発展と安定に貢献する機会が提供され、またその権利が保護されることも重要と考える。

第五に、複合的で困難な課題を抱える個人・家族への専門的・集中的な支援と、予防的な取り組みを含む人々のウェルビーイングの向上を目指す公私の幅広い主体の取り組みとの間のつながりやバランスをどう考えていくかという観点も必要ではないかな。

最後に、今日のあらゆる社会課題についていえることであるが、国際的な視点、グローバルな視点は、今回の審議テーマに関しても欠かすことができないのではないかな。